

VII 社会教育の推進

1 家庭教育の充実

(1) 今年度の課題

- ア P T A 研修や学級懇談会等における家庭教育の啓発を行う。
- イ くまもと「親の学び」プログラムの複数回実施による保護者のコミュニケーションスキルの向上を図る。

(2) 課題解決に向けた具体的な取組

- ア すべての学校において、P T A 研修や学級懇談会等における家庭教育の啓発を行う。
- イ くまもと「親の学び」プログラムの複数回実施による保護者のコミュニケーションスキルの向上を図る。

(3) 取組の実際

- ア P T A 研修や学級懇談会等における家庭教育の啓発

(ア) 保護者に対する学習機会の提供

平成26年度は、すべての小・中学校で保護者に対する学習機会の提供がなされた。

「くまもと『親の学び』プログラム」
(以下「親の学び」)

を中心に据えて、小・中学校のニーズにより、家庭教育啓発、人権教育啓発、情報安全の研修が実施された。

学校訪問では、地域連携部会を「親の学び」周知の機会と位置付けた。体験を通してその有用性を感じてもらい、その後のP T A 研修等での活用を図ってもらうことがねらいである。実際に学校訪問がきっかけで、P T A 研修での「親の学び」が実施された学校もあった。

また、家庭教育啓発のツールである「親の学び」の体験者数も順



〈上天草市立登立小学校学校訪問地域連携部会の様子〉

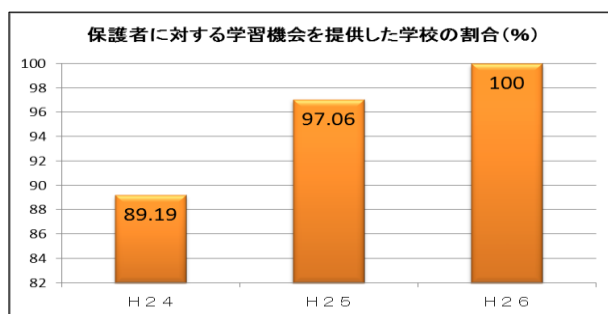


〈天草市立牛深中学校 P T A 研修の様子〉

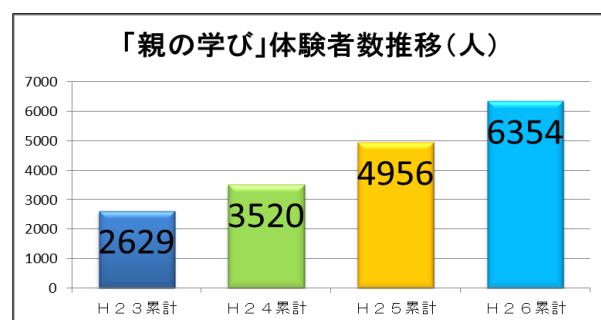


〈年3回活用の上天草市立阿村小学校 P T A 研修の様子〉

〈資料1：天草管内「保護者に対する学習機会の提供状況」3か年の推移〉（教育指導の反省より）



〈資料2：天草管内「親の学び」体験者数4か年の推移〉（月毎市町定例報告より）



調に伸びてきている。小・中学校等では、活用を意識していただき、さまざまな場面での活用が図られたことが体験者の増加につながったと考えられる。

(イ) 3歳児健診における講話の実施

平成26年度より上天草市の3歳児健診でも家庭教育講話を実施するようになった。わずか5分間ではあるが、これで天草管内すべての3歳児健診で講話ができるようになり、年間37回1435人の保護者に講話を行うことができた。教育と福祉・健康のさらなる連携を図っていきたい。



〈3歳児健診講話「ジャンボ紙芝居」の様子〉

(ウ) 幼・保等における家庭教育学級の実施

資料3のように、小・中学校での「親の学び」の実施は充実してきているが、幼・保等での実施は十分とは言えない。また小・中学校におけるPTA研修においても、「来てほしい保護者はなかなか来てくれない」という声がある。「くまもと家庭教育支援条例」にもある、親としての学びの機会の保障を、就学前でも進めていく必要がある。園長会議等での周知や巡回訪問で有用性を訴えていく等の取組が必要である。



〈大矢野たから保育園家庭教育学級の様子〉

また、継続した取組により、3歳児健診で話を聞いた保護者が、小学校で二度目の話を聞く、ということも多くなってきている。

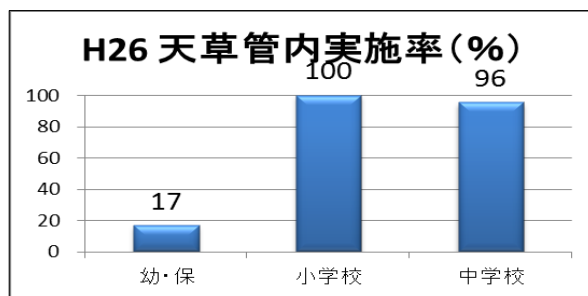
〈資料3：天草管内「親の学び」実施率〉（教育指導の反省より）

就学前の保護者に学びの機会を提供し、子どもが成長しても、親が学び続けるシステムを構築する必要がある。

イ くまもと「親の学び」プログラムの複数回実施による保護者のコミュニケーションスキルの向上

(ア) 「くまもと『親の学び』プログラム」の一層の活用

コミュニケーションスキル向上のための複数回実施を天草教育事務所取組の方向に明記し、啓発を行った。小・中学校でもそのことを意識し、PTA研修や校内研修、学年懇談会等の中に複数回位置づけて実施していただいた。



〈上天草市立今津小学校就学時健診講話の様子〉

資料４にあるように、１校当たりの実施回数が１．８２回と増加してきた。

また、資料５、資料６にあるように、小学校においては、３回以上実施が４０％以上と活用が図られた。中学校においては、情報安全に関する研修を中心に活用が図られた。

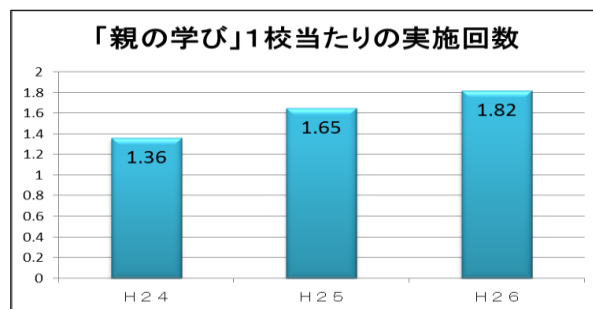


〈９０人参加の天草市立楠浦小学校ＰＴＡ研修の様子〉

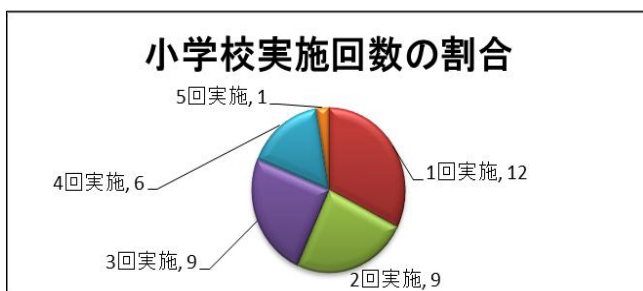


〈御所浦小学校就学時健診講話の様子〉

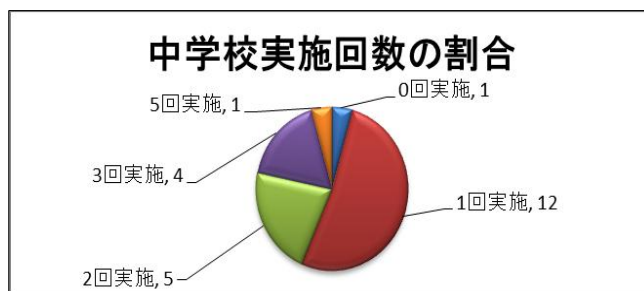
〈資料４：天草管内「親の学び」実施回数３か年推移〉（教育指導の反省及び市町定例報告より）



〈資料５：天草管内小学校「親の学び」実施回数別割合〉（月毎市町定例報告より）

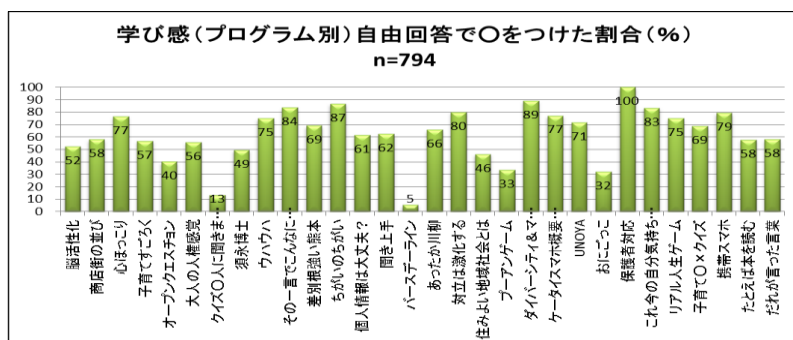


〈資料６：天草管内中学校「親の学び」実施回数別割合〉（月毎市町定例報告より）



また「親の学びあまくさ版とらのまき++（ツープラス）」（以下「とらのまき++」）を作成し配付したことで、多方面での実施が可能になった。特にカテゴリ別のデータを収録

〈資料７：「親の学び」プログラム別評価「学びがあったか」〉（参加者アンケートより）



し、ニーズに応じたプログラムの構成と実施が可能になった。さらに新規プログラムを多く掲載したことで、複数回実施への対応もできるようになった。

また、プログラム別の評価も随時集計した。これにより、ニーズを把握し、効果的なプログラムの構成が可能になった。



〈「親の学び」あまくさ版とらのまき〉

(イ) トレーナーの技能向上のための取組

トレーナーの技能向上を図るため、「管内親の学びトレーナー交流会」を１２月に開催した。

さらにそれを発展させた形として、「月刊親の学び交流会」を１２月～２月に計３回実施した。これは、「親の学び」に関心のある保護者等の体験の場として、また子育て世代のネットワーク構築を目的として開催した。毎回２０人を超える参加があり、保護者のニーズを感じた。

また、トレーナー自身も、新しく作成したプログラムを実施することができ、トレーナーの技能向上も図られるメリットの多い企画となった。今後も継続して実施していきたい。



〈月刊親の学び交流会の様子〉

(ウ) 次世代編の普及

熊本県教育庁社会教育課では「親の学び」の中でも、特に次世代編の普及に力を入れており、天草管内においても、その普及に努めた。

４月に実施した上天草高校１年生オリエンテーションでは、５０分のプログラムを行った。コミュニケーションスキルや対立の回避プログラム等、ニーズに合ったものもあり、９０人の参加者はとても主体的に参加することができた。



〈県立高校家庭科部会研修の様子〉

また、天草地域県立高校家庭科部会の研修では、家庭科学習の内容として、「親の学び」を取り入れたいという意向を受け、「とらのまき++」を実際に操作しながら、高校生向けのプログラムを中心に体験を行った。

その他にも、天草市立有明中学校の人権集会で、生徒１５０人を対象にした人権教育を中心としたプログラムを実施した。コミュニケーションスキルや自己有用感等、内容的には、次世代編と重なる部分も多く、活用の範囲はもっと広がることを実感した。

(４) 成果と課題

- 天草管内すべての三歳児健診で講話が実施できるようになり、就学前の保護者に学ぶ機会を提供し、親が学び続けるスタートとして、位置付けることができた。
- 「親の学び」を中心とした保護者への学習機会の提供が、着実に進んだ。
- 「親の学び」講座のアンケート集計(N=792)を行うことで、参加者の意識の傾向の把握ができ、有用性があった。

- 三歳児健診以外の健診時の講座の実施の検討を行う。
- 三歳児健診講話を市町教育委員会の対応に適宜移行していく。

(5) 次年度に向けた重点課題

- 「くまもと『親の学び』プログラム」を活用した家庭教育、人権教育、情報安全教育の充実（学年懇談会及び学級懇談会での実施）
- 就学前教育等へのアプローチとプログラムの活用

2 地域の教育力の活用

(1) 今年度の課題

ア 熊本版コミュニティ・スクール等、各学校における地域教育力の活用を図る。

(2) 課題解決に向けた具体的な取組

ア 熊本版コミュニティ・スクール等における地域教育力の活用を図り、学校応援団の活用や組織づくり等を進める。

(3) 取組の実際

ア 熊本版コミュニティ・スクール等、各学校における地域教育力の活用

(ア) 学校・家庭・地域連携推進事業等の活用

天草管内において、天草市では家庭教育支援事業（家庭教育支援）と放課後子ども教室推進事業を実施している。

家庭教育支援事業（家庭教育支援）では、天草市立亀川小学校と天草市立河浦小学校を拠点として、コーディネーターを配置し、家庭教育支援事業を実施している。コーディネーターは親の学びトレーナー登録をし、親の学びの普及にも尽力している。

また、放課後子ども教室推進事業では、天草市立本渡東小学校と天草市立島子小学校において、地域人材を活用した学習の補助や体験活動を実施している。特に本渡東小では、海外から校区内に移住された方を活用し、外国語のアクティビティを取り入れるなど、活動の幅が広がっている。

上天草市では、家庭教育支援事業（学校支援地域本部）を平成26年度より実施している。社会福祉協議会の方からコーディネーターを任命することにより、特に福祉に特化した人材の派遣が容易になっている。

苓北町では、家庭教育支援事業（学校支援地域本部）を実施してい



〈本渡東小学校放課後子ども教室、英語活動の様子〉



〈島子小学校放課後子ども教室、プリント学習の様子〉

る。コーディネーターが交替して初年であったが、小学校クラブ活動の補助等、安定した環境で活動が展開している。

また、１月２２日に「子どもの『夢』づくりのための地域教育力・家庭教育力向上実践交流会」を実施した。親の学び体験、地域と連携した実践のリレー発表（天草市立本渡東小学校・天草市立本町小学校・上天草市立龍ヶ岳小学校）、中川寺子屋プランナーの講話、研究協議と、充実した研修になった。

（イ）公民館と連携した家庭教育講座の実施

本渡地区公民館事業家庭教育講座が、佐伊津町コミュニティセンターにおいて開催された。１９時からの開催にもかかわらず、保護者、学校関係者、地域住民が計３０人程参加された。佐伊津地区では、学校訪問地域連携部会に始まり、小学校ＰＴＡ研修、就学時健診、そしてこの公民館家庭教育学級と「親の学び」が複数回活用された。学校と地域（公民館）双方からの家庭教育啓発の取組には大きな意味がある。

五和地区公民館事業家庭教育講座が、五和町コミュニティセンターにおいて、町内保育所の保育士を対象として実施された。

「親の学び」体験に加え、進行役の体験まで８０分の講座を実施することができた。課題である幼・保等における家庭教育支援の充実のためにも効果のある取組であった。

（ウ）企業等における家庭教育啓発の取組

県教育委員会では「愛としつけ」キャンペーンを実施している。これは、学校のみならず、地域の各種団体においても、家庭教育等の大切さを認識してもらい、登録を通してポスターやパンフレットによる啓発等を行う取組である。

ライオンズクラブに１回、天草青年会議所に２回、このキャンペーンの周知を目的として講話に出かけた。ライオンズクラブでは、定例の学習会に「家庭教育啓発」として３０分を用意していただき、十分な周知ができた。

天草青年会議所では、講話の後に理事長自ら「私たちの地域貢献はそれぞれの職場からこのような活動に積極的に参加することで進められる」と声をかけていただき、一気に「愛としつけ」キャンペーンの登録が増えた。

子どもを取り巻く環境をよりよいものにしていこうと、地域の団体



〈子どもの「夢」づくりのための実践交流会、天草市立本渡東小学校発表の様子〉



〈子どもの「夢」づくりのための実践交流会、グループ協議の様子〉

や企業、学校等がネットワークをつくっていくことが大切である。

(4) 成果と課題

- 寺子屋プランナーが学校訪問をする機会やボランティアチームの活用も増えてきた。
- 「愛としつけ」キャンペーンに登録、参加する企業や団体を増やすため、さらなる啓発を図る。

(5) 次年度に向けた重点課題

- | |
|----------------------------|
| ○ 「愛としつけ」キャンペーンのさらなる啓発を図る。 |
|----------------------------|

3 家庭や地域における人権教育の充実

(1) 今年度の課題

- ア 家庭や地域における人権教育の充実を図る。

(2) 課題解決に向けた具体的な取組

- ア 参加体験型学習プログラム等を活用し、家庭や地域における人権教育の充実を図る。

(3) 取組の実際

- ア 参加体験型学習プログラム等を活用し、家庭や地域における人権教育の充実。

(ア) 市町人権教育担当指導員の親の学びトレーナー登録

上天草市人権教育指導員、天草市社会教育指導員（人権担当）を「親の学び」トレーナーとして位置付け、「親の学び」の研修に参加できるようにした。これにより、家庭教育の中に人権教育プログラムを取り入れたり、人権教育の中に家庭教育プログラムを取り入れたりすることが可能になった。〈資料8：参加体験型学習プログラム等を活用した学習機会の提供〉

(イ) P T A 研修等における参加体験型学習プログラムの実施

資料8のように、人権教育研修での参加体験型学習プログラム活用も広がりを見せた。

また、P T A 研修等で講話をする際も、同和問題や障がい者の人権等、人権問題に関するプログラムを積極的に取り入れ

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・天草市幼稚園職員人権教育研修（4/11）（90分）参加50人：天草市内の公立幼稚園の全職員の研修において人権教育講話を実施した。・人権教育主任研修会（5/22）（50分）参加60人：管内人権教育主任研修会で参加体験型プログラムを実施した。・天草市立本渡北幼稚園P T A 人権教育研修（6/14）（50分）参加60人：保護者向け参加体験型プログラムを実施した。・10年経験者研修（7/11）（50分）参加10人：10年経験者を対象に参加体験型プログラムを実施した。・苓北町立富岡小学校P T A 人権教育研修（11/17）（60分）参加30人：保護者向け参加体験型プログラムを実施した。・天草市立有明中学校人権集会講話（11/28）（60分）参加160人：生徒人権集会で、参加体験型でコミュニケーションプログラムを実施した。・天草市立本渡東中学校人権集会（12/7）（25分）参加140人：人権教育主任が5月の人権教育主任研修の演習をもとに、「商店街の並びは？」や「ちがいのちがい」を全生徒に向けて、実施した。等 |
|---|

て実施した。

(ウ) 参加体験型学習プログラムの作成と活用

人権教育に特化した20のプログラムを含む「とらのまき++」を全校に配付し活用を図った。

参加体験型学習プログラム等を活用した学習機会の提供が、管内24校で活用された。(教育指導の反省)

〈資料⑩あまくさ版とらのまきの中の、人権教育関係参加体験型プログラム〉

天草市立本渡東中学校では、人権教育主任研修会の演習を、人権教育主任が、人権集会で実施するなど、参加体験型学習プログラムの活用が図られた。

(4) 成果と課題

- 教育事務所取組の方向に人権教育の充実を加え、啓発を進めることができた。

(5) 次年度に向けた重点課題

- 「くまもと『親の学び』プログラム」を活用した家庭教育と人権教育と情報安全教育の充実(校内研修での実施)

プログラム一覧

- 1 みんなでウハハハ! (5分) ~差別の体験、マイノリティ体験
- 2 わたし、再発見 (10分) ~自己肯定感
- 3 商店街のならば? (10分) ~ロジカルシンキング
- 4 その一言でこんなに違う (15分) ~コミュニケーションスキル
- 5 「障がい」って何? (20分) ~障がいの人権
- 6 ちがいのちがい (20分) ~基本的人権、さまざまな人権
- 7 専業主夫 (15分) ~男女共同参画、女性の人権
- 8 あなたなら何と答えますか (10分) ~共生社会、障がいの人権
- 9 就職差別について考える~統一応募用紙~ (15分) ~同和問題
- 10 住みよい地域・社会とは (5分) ~外国人の人権、国際理解
- 11 大人の人権感覚が (10分) ~外国人の人権、障がいの人権
- 12 マナーと人権 (10分) ~住みよい社会、環境問題
- 13 プライバシーの権利 (15分) ~個人情報の保護、情報モラル
- 14 怒りの温度計 (10分) ~対立の回避、自己調整力
- 15 対立は激化する (15分) ~対立の回避、自己調整力
- 16 対立は激化する2 (15分) ~対立の回避、自己調整力
- 17 差別根強い熊本、今も変わらず残念 (10分) ~同和問題
- 18 あなたの個人情報は大丈夫? ~「フタムシ」事件を題材に (15分) ~同和問題
- 19 ダイバーシティ&マイノリティー (15分) ~性同一性障がい等
- 20 活書さ~外国人の人権等

〈参考資料〉

- ・第2期くまもと「夢への架け橋」教育プラン(熊本県) 平成26年3月
- ・くまもと「親の学び」プログラム(熊本県教育委員会) 平成24年3月
- ・あまくさ版「とらのまき」(天草教育事務所) 平成24年8月
- ・あまくさ版「とらのまき」プラス(天草教育事務所) 平成25年8月
- ・あまくさ版「とらのまき」++(天草教育事務所) 平成26年8月
- ・くまもと家庭教育支援条例(熊本県) 平成25年4月
- ・平成26年度全国学力・学習状況調査クロス集計 平成26年実施
- ・ちょっと待って! ケータイ&スマホ(文部科学省) 平成26年発行
- ・中高生を中心とした子供の生活習慣づくりに関する検討委員会
(文部科学省) 平成26年4月
- ・平成24年度青少年の体験活動等に関する実態調査
(国立青少年教育振興機構) 平成26年3月
- ・コミュニティサイトに起因する児童被害の事犯に係る調査結果(平成25
年下半年期) (警察庁) 平成26年5月
- ・ダイバーシティ・トレーニング・ブック(解放出版社)